

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:令和 4年 3月 10 日

事業所名 チャイルドサポートみやこ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	7	5		・個別でそれぞれに合った活動をするには狭い。 布団スペースが用意できない。 感染予防対策としては十分ではない。 ・狭い。
	2	職員の配置数は適切である	5	4	7		・看護師不足。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	9	1		・室内は良いが気軽に個別に中庭や外に出るのに不自由さを感じる。 ・室内より、外(駐車場)などに無い。 ・チャイルドスロープ側に屋根が欲しい。玄関が狭い。 ・利用者の年齢や特性に合ったトイレの広さや数
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	6	1		・やろうという旨の意識はあるが、時間の確保が難しい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	6	3		・アンケートは実施しているが、直接業務改善に繋がっているか疑問。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	3	3		・自分が把握していないだけの可能性がある。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	7	6		・自分が把握していないだけの可能性がある。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	3			・研修の機会はあるが参加するメンバーは同じ。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	11	4	1		・連携機会が増えてきている。給食MTG、カンファ、専門研修で事例等。 保護者との面談が少ない。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	6	8		・アセスメントツールと呼ばれるものを活用しているかどうか理解していない。 ・アセスは重心児は難しい。 ・評価方法が各々で違う。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	9	7			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	6			
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	8	3		・もう少し丁寧にプログラムを設定したいと思う。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	13	2	1		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	14	2			・定期的なミーティング、ノートを作成し、内容を随時確認。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	14	1			・やっているが、職員が揃わない。支援終了が就業終了時に近く子どもがいる状態で行っている。 ・時間や人数が取れないことが多い。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	3			
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	13	3				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	3	12	1		・「基本活動」について勉強不足で取り入れられているか分からない。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	15				
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	13	3			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	8			<ul style="list-style-type: none"> 書類上でのやり取り以外がなく、連絡体制というものがあるか分かっていない。 連絡体制は整えているが、実際活用できているか不明。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	7			<ul style="list-style-type: none"> 放デイ利用前も同じ自社の多機能(児童発達支援)を利用していて情報を共有する必要がなかった為。 外部との連携は難しい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	13	2			
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6	7	3		<ul style="list-style-type: none"> 受けたことがなく、体制が整っているかが分からない。 定期的な研修を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8	6	2		<ul style="list-style-type: none"> コロナの影響あり。 機械はあるがコロナで制限有り。 コロナのため控えている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	1	7	8		<ul style="list-style-type: none"> 参加したことがあるか分からない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	3			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	10	4	2		<ul style="list-style-type: none"> ペアトレが発達系で、チャイ I にはケアラーの方が良いと思っている。 案内、開催はしている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	7			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	11	5			<ul style="list-style-type: none"> 食事面など、聞き取り不足が課題。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	2	4	10		<ul style="list-style-type: none"> やろうとは務めているが、コロナの影響で実績がない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	2			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	1	1		
	35	個人情報に十分注意している	1	3			<ul style="list-style-type: none"> 保護者からの苦情はないが、子どもたちを職員の個人携帯で管理している。 コピーの裏紙にいろいろある。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	11	3			<ul style="list-style-type: none"> 子どもの意思疎通に関しての知識は少ない。 コミュニケーション危機が少しずつ入ると良い。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	5	7		<ul style="list-style-type: none"> とてもやりたいと思っていることの1つ。まだやれているとは思えない。 コロナ対策で弱い子達の難しさ。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	11	3			・嘔吐時など、徐々に改良しているが色んなパターンが想定され、手探り。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	14				
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	2			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7	5	2		・現在検討中の事例があり、それが今後どう扱われているか分からない。現在記載されているものはない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	9			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	1			